

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593533

研究課題名(和文) Webコミュニティの利用による訪問看護情報ネットワークの構築

研究課題名(英文) Building the visiting nursing information network by using web community

研究代表者

王麗華(WANG, LIHUA)

国際医療福祉大学・保健医療学部・講師

研究者番号：20438774

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、訪問看護情報ネットワーク構築の方向性を探るために行った日本全国計22カ所で訪問看護師へのインタビュー調査を踏まえ、在宅看護に関する多様な情報交流の場である「Webコミュニティ」のコンテンツを考案し、インターネット上にホームページを開設した。このWebコミュニティには開設後90日で3985回のアクセスがあった。このような結果から、本研究は、多職種間での情報提供・交流の場であるWebコミュニティの構築という所期の目的に留まらず、このような場は、訪問看護師がネットワークを活用して情報を共有することで新たな学びの場となり、知識の更新につながることを示唆する結果も得た。

研究成果の概要(英文)：This study aims to make clear the characters of visiting nurse's on the care and to build visiting nursing information network. We interviewed to 22 visiting nursing stations, including Tokyo area 9 stations, Touhoku area 5 stations, and Sapporo area 8 stations. From this interview, we made clear that visiting nurses made much account of the sharing information about how to care their patients. Basing this result, we devised contents of "web community", which aimed to communicate each other on the home and visiting nursing, and we set up our site on the Internet. 3,985 visited our site during 90 days. As the end, this study helped to build the web community on the Internet, which supported exchanging and supplying the information about home and visiting nursing between multi occupations. Moreover, this study made clear that visiting nurses used this site to share and get more information, and that this site became the learning field for refreshing the knowledge about caring patients.

研究分野：医歯薬学

キーワード：訪問看護 WEBコミュニティ 在宅療養支援

1. 研究開始当初の背景

日本では患者の在院日数の短縮や医療機器の小型化により、在宅療養へのニーズが増加している。厚生労働省『平成 22 年度医療施設(静態・動態)調査・病院報告の概況』によると、1999 年の一般病院平均在院日数 27.2 日で、2010 年は 18.2 日の減少となっている。一方、在宅療養の見通しについて、厚生労働省『平成 20 年受療行動調査(確定数)の概況』によると、患者の 35.7%が自宅では療養できないと回答しており、在宅療養を可能にする条件として 25.6%が「医師、看護師などの定期的な訪問」をあげている。またこの数値は、平成 17 年度の 21.3%から上昇している。医療依存度の高い療養者への看護、幅広い対象への看護や訪問看護師の情報不足による対応の困難さが在宅看護の課題と考えられる。以上のことから、訪問看護ステーション(Visiting Nursing Station,以下訪問看護ステーションと略)は、医療依存度が高い在宅療養者や子どもから高齢者まで幅広い看護対象への対応を求められている。そして、そのためには訪問看護師間、在宅療養者・家族と訪問看護師間、医師と訪問看護師間の情報交流・共有が不可欠である。

このような現状を改善するためには、在宅療養者・家族への看護を中心に、医師・訪問看護師が、いかに在宅医療・看護の知識・技術・対象に関心を寄せ、自分たちで Web コミュニティのような訪問看護情報ネットワークを構築するかにかかっている。このようなネットワークの構築は、訪問看護に関する情報の交流や共有を可能にする。Web コミュニティでの相互コミュニケーションは、訪問看護の実践、在宅看護の知識、幅広い看護情報の共有や交換を可能にするため、より多くの利用者への対応を可能にする基盤となる上、在宅療養者・家族が訪問看護ステーションを一層利用するようになる基盤ともなる。

そこで本研究は、在宅療養者を中心に在宅看護に関する多様な情報交流の場の提供することで在宅看護を質を高めるために、「Web コミュニティによる訪問看護情報ネットワークの構築」することが大変に重要な情報ツールとなっている。

2. 研究の目的

本研究では上で述べた状況を踏まえ、訪問看護師同士の連携および訪問看護ステーションと病院との連携を強化し、地域における看護ネットワークを構築するために必要な方法を明らかにすることを目的とする。

(1)訪問看護ステーションにおける ICT の情報活用の実態を明確化

訪問看護ステーションにおけるホームペ

ージ上の情報の利用の実態調査により明らかにする。

(2)在宅看護に情報活用するための「Web コミュニティによる訪問看護情報ネットワークの構築」

実態調査の分析を踏まえ、訪問看護を中心とした看護ネットワーク構築に有効な方法を考案する。

3. 研究の方法

2012 年度から 2014 年度にわたる各年度において、以下の方法で研究を進めた。

(1)ステップ 1

WEB 上で公開されている東京都内の訪問看護ステーション 409 件は調査対象に HP の有無、訪問看護の内容、掲載されている連絡方法、サービス内容、教育内容によりデータを収集した。単純集計した結果により分析を行った。

(2)ステップ 2

研究者は、所属している大学研究倫理委員会の承認を得て訪問看護ステーションに勤務している看護師へのインタビュー調査を実施した。対象は東北地域の訪問看護師 5 名、東京都内の訪問看護師 9 名、北海道地区の訪問看護師 8 名である。方法は対象者にインタビューガイドを用いて 1 時間程度で半構成面接を実施した。方法は訪問看護利用者の依頼元、療養者と家族へのケアの実際、多職種との連携ツールおよび方法、訪問看護に関する情報と知識の入手方法の実際によりデータ収集した。インタビューデータの逐語録により質的・帰納的に分析した。

(3)ステップ 3

2012 年度ならびに 2013 年度に行った、訪問看護ステーションにおけるホームページ上の情報提供の実態調査およびインタビュー調査を分析し、分析結果を基に看護ネットワークの構築の方法について検討した。

4. 研究成果

本研究の主な研究成果は以下のとおりである。

(1)ステップ 1 から

WEB 上で公開されているホームページから東京都内の訪問看護ステーション 409 件を調査対象とし、「訪問看護ステーションの概要」は設置主体医療法人社団、財団は 104 件(46%)、管理者名掲載 77 件(34%)であった。営業時間を記載しているのは 191 件(85%)、

営業日は 184 件(82%)、訪問看護料金の表示は 122 件(54%)と示している。「訪問看護ステーションの連絡ツール」は電話および FAX が 224 件(100%)、E-mail 104 件(46%)であった。

「訪問看護の内容」は、訪問看護の説明を 197 件(88%)が記載しており、具体的には施設・運営理念、ケアマネジャーについて、訪問看護でできることなどであり、多様な表現であった。利用者に対する看護内容の説明が 197 件(88%)、看護師が提供する技術について 162 件(72%)、看護師の研修について 50 件(22%)、看護知識の提供について 42 件(19%)であった。「訪問看護ステーションの連絡ツール」の掲載が電話や FAX よりも MAIL の使用が少ないことについて、訪問看護ステーション事務所の PC の保有台数が限られており、メールを開くことが FAX よりも時間を要することが要因の一つと考えられる。

「訪問看護ステーションの概要」に掲載の営業日時については 8 割以上を占めているが、料金の表示に関しては 5 割にとどまっていた。これは、スタッフ間において、医療保険や介護保険の利用が常識であるという認識があるためと考えられる。

「訪問看護の内容」の説明や提供する看護技術の掲載が多い傾向にあるが、看護師の研修や看護師の知識の提供が少ない傾向にあった。これは、利用者にとって、訪問看護の概念の説明が、直接理解を促すことの一つであり、看護師の研修や教育内容は利用者の個別のニーズに直接結びつかないという認識があるのではないかと考えられる。

調査したホームページの掲載件数は、半数以上であり、ホームページ上に情報を提供する必要性が高まっている。実際に活用されている状況は今回の調査では明らかになっていないため、今後の検討課題といえる。

(2)ステップ 2 から

訪問看護師は在宅ケアにおいて、療養者・家族の療養生活を包括的に把握し、生活そのものを重視し、他職種との協働によるケアの取組を大切に考えていることが明らかになった。また、療養者・家族の負担を配慮し、新聞紙など「日用品を利用したケアの道具の工夫」など、訪問看護師自らの経験を生かした実践的な取組もあった。このようなケアへの取組の姿勢から訪問看護師個々の看護観を基盤に、在宅療養者を生活者として認識し、生活に密着したケア方法に取り組んでいることが分かった。訪問看護師個々の看護観がケアに反映しているために、看護師が変わるとケアの継続性が担保されないことが予測できる。よって、継続的なケアを保障するために訪問看護には常に協働・連携が求められており、訪問看護師が確かに重視してい

る項目であった。

訪問看護ステーションの地域ごとの訪問看護情報ネットワークの実態に関する情報収集、データの分析を行った。

平成 24 年度に東京都(9 箇所)東北地方(5 箇所)、札幌地区(8 箇所)計 22 箇所の訪問看護師を対象にインタビュー調査を行った。調査の結果をもとに、訪問看護師が在宅療養者およびその家族へのケア行動や指導行動を分析した。

訪問看護師が療養者の家族への指導において、《療養者・家族の療養生活力の多様化》、《在宅療養に必要な医療処置の多様化》、《指導の開始時期および指導方法の工夫》、《家族への指導に時間をかけて見守りながら進めるという訪問看護師の姿勢》、《訪問看護師の家族への配慮》の 5 つのコアカテゴリ - に分類できた。また、介護している家族の療養生活力と療養者に必要な医療処置が多様化している。訪問看護師による家族への医療処置に関する指導は開始時期および指導方法の工夫されていることが分かった。また、家族へ配慮しながら時間をかけて見守りながら進めるという姿勢が示唆された。訪問看護師は家族への指導の際に状態や手技習得する力をアセスメントしたうえで、指導を開始する時期や方法など個々の指導をすすめていることが分かった。よって、看護師の経験や指導情報の共有により、共有自立に向けて家族への指導は安定した在宅療養の継続につながると考えられる。

訪問看護師の在宅ケアへの取り組み姿勢において、《カンファレンス・情報共有に基づいた他職種との協働》、《療養者・家族への支援のための社会資源の活用》、《療養者を生活者として認識し、ケアを生活に密着させる工夫》の 4 つのコアカテゴリ - に分類できた。《訪問看護師の看護観に基づいた看護実践》は「褥瘡を作らない強い意志」、「症状コントロール」、「医療的処置を忠実に行うことを大事にしている」など 8 つのサブカテゴリーが抽出された。ケアにおいて訪問看護師の考えや価値観など、ケアへの取り組みの基盤となるものであると伺えた。《カンファレンス・情報共有に基づいた他職種との協働》は「それぞれの立場で振り返るデスカンファレンス」、「気になることがあればケアマネに連絡する」がみられ、ケアチーム間で療養者へのケアの状況や思いを共有することで質の高いケアにつながるといえる結果が見出された。

《療養者・家族への支援のための社会資源の活用》は「家族の介護負担を軽減するための社会資源活用」、「社会資源を利用するスケジュールを組む」など 3 つのサブカテゴリーが抽出された。《療養者を生活者として認識し、

ケアを生活に密着させる工夫》は「ケア方法の工夫」、新聞紙や生活用具など代用品の使用を推奨する「ケア用具の工夫」など、6つのサブカテゴリーが抽出された。

療養者・家族の全体状況を重視し、他職種との協働によるケアの取組がみられた。また、療養者・家族の負担を配慮し、新聞紙など「ケア用具の工夫」など訪問看護師自らの経験を生かした取組もあった。このような取組において訪問看護師の看護観を基盤に在宅療養者を生活者として認識し、生活に密着するケア方法に取り組んでいることがケアの質を高めるためにも欠かせないと考えられる。療養者に質の高いケアを提供するために、訪問看護師は常に情報収集し、有効なケアの取組を探求することを求められていると考えられる。

在宅移行期の訪問看護師による療養指導の実際において個別性を重視した介護方法の指導：病院で実施されている手技の習得を目指しながらも、療養者や家族の在宅での状況を捉え個別性を重要視した指導を行っていた。

連携する職種と共に行う退院指導：退院調整部門の看護師、ケアマネジメントに関わる専門職、および主治医との連携をもち、それぞれの職種の役割遂行に併せて、必要な指導を行っていた。

退院当初即時の療養環境の整備：療養者家族の意向を十分汲んだ療養となるよう望みを確認すると同時に、自宅に戻ったその時から安心できるよう、あらゆる手段を用いて療養環境を整えていた。訪問看護師は家族介護者への介護方法の指導にとどまらず、療養者家族の個別性を重視し、在宅療養開始当初より望む療養生活ができるよう、関わる職種とともに、また、拡大した看護活動の範囲で支援を考え、実施していた。

(3)ステップ3から

これまでの研究成果を基に、メディア担当の研究分担者と十分に協議を重ね、在宅看護学の専門家である国際医療福祉大学教授（当時）福島道子氏のアドバイスおよび意見を踏まえ、コンテンツの内容を検討した。また、必要時に情報を獲得しやすくするための方法、協力者のプライバシーなどのセキュリティ確保の方法も検討され、Webコミュニティ看護情報ネットワークの方向性を決定するに至った。

平成24年度、平成25年度に行ったインタビュー調査の結果をもとに、訪問看護師が在宅療養者およびその家族へのケア行動や指導行動を分析した。また、訪問看護ステーション

の管理、多職種連携、看護学生との関わりなど様々なネットワークの構築によって強化する方法を研究した。

研究結果を踏まえて、在宅看護に関する多様な情報交流の場として「Webコミュニティ」のコンテンツを考案し、インターネット上にホームページを開設した。（図1、図2）



図1 ホームのメイン画面

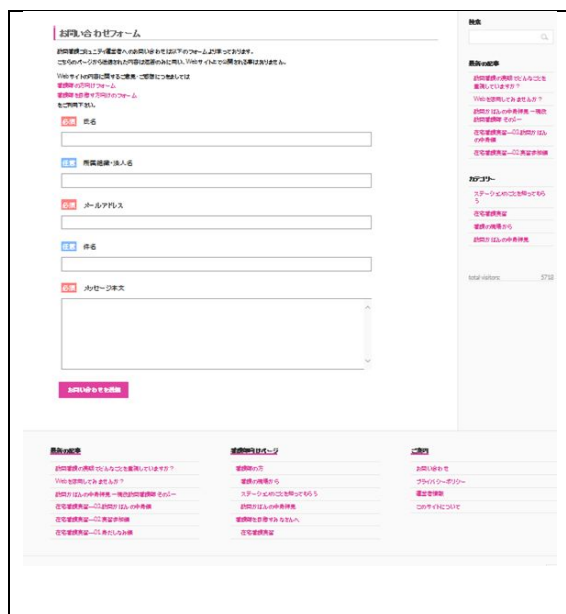


図2 質問や意見な意見交換できる画面

ホームページの内容について、訪問看護師へのインタビュー調査の結果を踏まえて訪問看護師が必要としている情報であるケア行動、教育、療養者および介護家族への指導を中心に検討した。また、看護師により訪問看護を理解してもらうため、「ステーションのことを知ってもらう」、「ステーション Web サイト Q&A」や「看護の現場」というコンテンツを設定し、在宅看護の知識を普及する内容にした。（図3、図4）



図3 訪問看護現場で働く看護師の画面

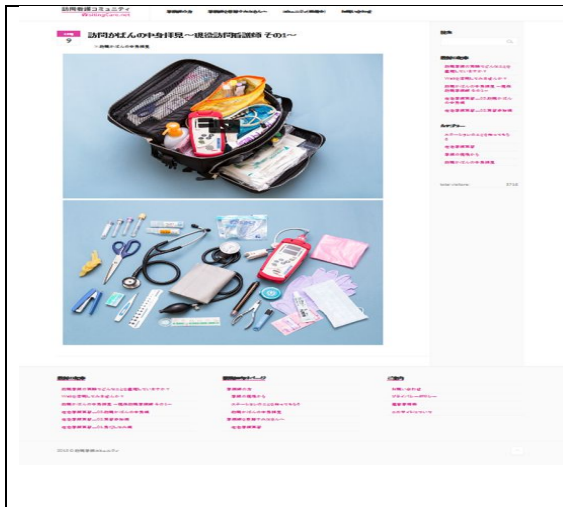


図4 訪問看護現場で働く看護師の画面

また、多数の訪問看護ステーションは看護学生の実習を受け入れている現状をふまえ、訪問看護の現場、身だしなみ、実習参加など看護学生の在宅看護学実習に関する知識を盛り込んだ。(図5)



図5 在宅看護学実習に関する内容の画面

訪問看護ステーションで実習は、看護学生のユニフォームは病院と異なり、訪問看護ステーションによって詳細に指示された場合もある。そのため、学生はイメージしやすいように身だしなみの例を掲載した。(図6)

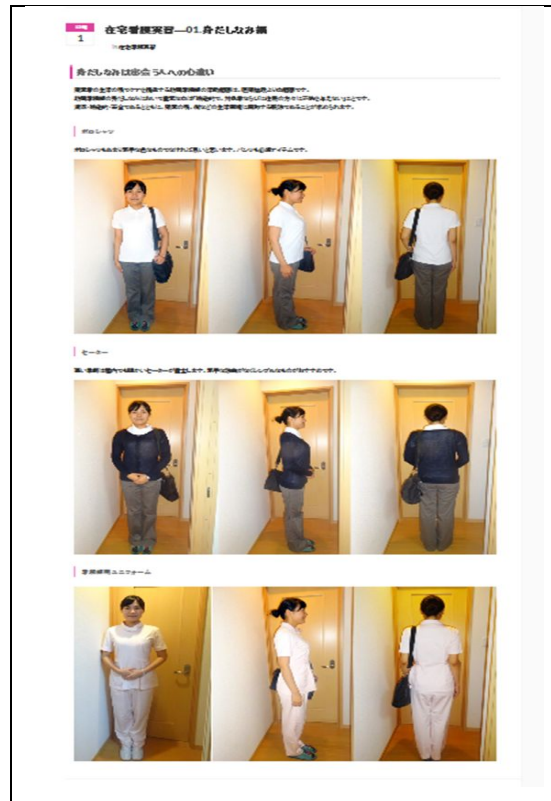


図6 訪問看護の身だしなみの例

そして、「Web コミュニティ」の開設後、90日の時点で、アクセス回数は3985回に上った。また、訪問看護ステーションでの実習、訪問看護の現場における看護職の経験に関する書き込みがあった。このような結果から、今後、在宅看護においてインターネット上に看護情報の情報提供・交流の場としての「Web コミュニティ」を用いて、訪問看護師、看護学生、関連職種が情報を共有することで新たな学びの場となり、知識の創出につながる必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

磯山優・王麗華、「在宅看護ネットワークに関する理論的考察」、『埼玉学園大学紀要』経済経営学部篇、査読無、第14号、2014年12月、21-32頁。

磯山優・王麗華、「訪問看護ステーションにおけるWebサイトの活用 -マーケティングの観点から-」、『埼玉学園大学紀要』経済経営学部篇、査読無、第13号、2013年12月、25-32頁。

磯山優・王麗華、「訪問看護ステーションの連携戦略とマーケティング」、『埼玉学園大学紀要』経済経営学部篇、査読無、第12号、2012年12月、37-46頁。

〔学会発表〕(計14件)

Wang Lihua・Masaru Isoyama, A Study on the Visiting Nurses' Attitude to the Home Care Patients 2015.2.5 18th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars) Taipei(Taiwan)

Wang Lihua・Masaru Isoyama, A Study on the Strategy of the Visiting Nursing Station in the Local Area in Japan 2015.2.5 18th EAFONS(East Asian Forum of Nursing Scholars Taipei(Taiwan)

磯山優・王麗華・李相和・佐藤任宏、訪問看護ステーションによるWeb活用の実態 - 設置形態との関係を中心に - 2014.9.14、第52回日本医療・病院管理学会学術総会 TOC 有明コンベンションホール(東京・有明)

平山香代子・本田彰子・王麗華、在宅移行期の訪問看護師による療養指導の実態 2014.8.23 日本看護研究学会 第40回学術集会 奈良県文化会館(奈良県奈良市)

王麗華・平山香代子・太田浩子・木内妙子、療養者・家族の力を活かす医療処置の習得への支援 2014.8.23 日本看護研究学会 第40回学術集会 奈良県文化会館(奈良県奈良市)

Masaru Isoyama・Lihua Wang・Hiroko Ohta・Taeko Kiuchi, Different attitudes between the VNSs toward the utilization of website 2013.10.18, Scientific Committee of 9th INC & 3rd WANS (Seoul, Korea)

Lihua Wang・Masaru Isoyama・Taeko Kiuchi・Hiroko Ohta, A Study on the Visiting Nurses' Use of Internet Website -on the House Nursing Practices in Tohoku Area -, 2013.10.18, Scientific Committee of 9th INC & 3rd WANS (Seoul, Korea)

磯山優・王麗華 訪問看護ステーションのマーケティング活動に関する考察 2013.9.27 第51回日本医療・病院管理学会学術総会 京都大学(京都府京都市)

王麗華・太田浩子・平山香代子・木内妙子 訪問看護師が在宅ケアを実施する上で重視していることに関する研究 2013.8.23 日本看護研究学会第39回学術集会 秋田県民会館(秋田県秋田市)

太田浩子・王麗華・寺本正恵・木内妙子、療養者家族の健康維持のために訪問看護師が配慮しているケアに関する研究、2013.8.23、日本看護研究学会 第39回

学術集会 秋田県民会館(秋田県秋田市)

王麗華・太田浩子・木内妙子 東京都の訪問看護ステーションにおけるホームページ上の情報提供の実態に関する調査、2013.3.9、第17回在宅ケア学会学術集会 茨城県立県民文化センター(茨城県水戸市)

磯山優・王麗華 訪問看護ステーションにおける連携戦略の実態と課題 2012.10.19 第50回日本医療・病院管理学会学術総会 東京国際会議場(東京都江東区)

王麗華・磯山優 訪問看護ステーションにおける情報活用の実態に関する研究 2012.10.19 第50回日本医療・病院管理学会学術総会 東京国際会議場(東京都江東区)

王麗華・木内妙子・太田浩子・寺本正恵 在宅看護教育における学内演習の学習効果に関する文献検討 - 2006年から平成22年までの文献の分析 - 2012.7.6 第38回日本看護研究学会学術集会 沖縄コンベンションセンター(沖縄県那覇市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

王麗華 (WANG LUHUA)
国際医療福祉大学・保健医療学部・講師
研究者番号: 20438774

(2) 研究分担者

磯山 優 (ISOYAMA MASARU)
帝京大学・経済学部・教授
研究者番号: 10258931

前田 浩利(MAEDA HIROTOSHI)
東京医科歯科大学・医学部・非常勤講師
研究者番号: 90520908

木内妙子(KIUCHI TAEKO)
東京工科大学・医療保健学部・教授
研究者番号: 50279775

(3) 連携研究者

安藤公彦(ANDO KIMHIKO)
東京工科大学・メディア学部・助教
研究者番号: 00551863

太田浩子(OHTA HIROKO)
東京工科大学・医療保健学部・講師
研究者番号: 30583934